表４－５　レビュー対象文献一覧－19

論文NO	著者	論文タイトル	雑誌名	巻	号	頁	年
714	並川明子	退院計画活用前後の看護婦の在宅療養に向けての行動と意識の比較	第31回日本看護学会論文集-地域看護-			149-151	2000
715	小川奈穂子	ホスピスケアにおける患者と家族のニーズ-入院時アンケートより-	第31回日本看護学会論文集-地域看護-			152-154	2000
716	原　ひとみ	人工呼吸器を装着した筋萎縮性側索硬化症患者及び家族への在宅療養に向けての指導方法	第31回日本看護学会論文集-地域看護-			155-157	2000
717	田中正子	長期在院の精神分裂病患者を抱える家族の実態調査	第31回日本看護学会論文集-地域看護-			158-	2000
718	西堀好恵	看護婦におけるバーンアウトと対人環境	看護研究	33	3	245-254	2000
719	武村雪絵	看護者が認識する「よい看護」の要素とその過程	看護研究	34	4	329-339	2001
720	村松照美	健康学習支援における保健婦の力量形成過程の分析-澤本のリフレクション方法を活用して-	保健婦雑誌	57	13	1070-1075	2001
721	土井由利子	痴呆症状を有する在宅高齢者を介護する主介護者の精神的健康に関する研	日本公衆衛生雑誌	47	1	32-46	2000
722	緒方泰子	在宅要介護者を介護する家族の主観的介護負担	日本公衆衛生雑誌	47	4	307-319	2000
723	田宮菜奈子	わが国の訪問看護サービスにおけるアウトカム指標を用いた継続的質向上のための対策 - 実施結果報告および実施可能性の検討-	日本公衆衛生雑誌	47	4	350-363	2000
724	緒方泰子	訪問看護サービスの相対的価値付けに関する研究	日本公衆衛生雑誌	47	12	973-989	2000
725	川南勝彦	難病患者に共通の主観的QOL尺度の開発	日本公衆衛生雑誌	47	12	990-1003	2000
726	斉藤恵美子	家族介護者の介護に対する肯定的側面と継続意向に関する検討	日本公衆衛生雑誌	48	3	180-189	2001
728	原田亜紀子	高血圧患者に対する運動療法の費用と効果に関する検討	日本公衆衛生雑誌	48	9	753-763	2001
729	渡邊輝美	病院から在宅療養への移行時の病院看護婦と保健婦の連携について	日本公衆衛生雑誌	48	10	860-867	2001
730	諸田直実	乳がん患者のリハビリテーション看護の概念特性と看護実践内容の明確化-診断を受けてから退院して家庭生活を始める過程に焦点を当てて-	日本がん看護学会誌	14	2	28-41	
731	久保五月	がん患者の疼痛緩和ケアに携わるエキスパートナースの実践知	日本がん看護学会誌	14	2	55-65	
733	臼井千鶴子	臓器提供意思表示カードを提出された脳死患者家族の心理変化	日本救急看護学会雑誌	1	2	58-63	
734	清家卓也	褥瘡治療にティッシュ・エキスパンダーを使用した1例	日本褥瘡学会誌	3	1	61-65	2001
735	栗田朝子	滅菌委託に伴う効果	臨床看護	26	1	131-136	2000
736	會田信子	高齢者の”かゆみのケア”の実際	臨床看護	26	1	137-144	2000
737	山田京子	高次脳機能障害をもつ高齢切断患者のセルフケア自立に向けての援助	臨床看護	26	1	9-15	2000
738	大金生美	四肢切断術を受けた患者の看護	臨床看護	26	1	16-22	2000
739	後藤智子	閉塞性動脈硬化症により右下腿切断を受けた患者の看護	臨床看護	26	1	23-29	2000
740	阿部幸子	転移性骨腫瘍により右下腿切断を受けた左片麻痺患者へのかかわり	臨床看護	26	1	30-35	2000
741	中原由美子	骨盤半截術を受けた患者の看護	臨床看護	26	1	36-41	2000
742	片山くみ子	気管支喘息患者の看護	臨床看護	26	2	162-169	2000
743	金子美恵	糖尿病におけるストレスと看護	臨床看護	26	2	170-176	2000
744	井出小夜子	摂食障害患者の看護の実際	臨床看護	26	2	177-181	2000
745	上野滑恵	温熱療法（焦点式超音波療法）を受ける前立腺肥大症患者への看護	臨床看護	26	3	305-311	
746	斧明美	前立腺レーザー切除術を受ける患者の看護	臨床看護	26	3	312-319	
747	森川祐美	TUNAを受けた患者の早期社会復帰に向けた援助	臨床看護	26	3	320-327	
748	岳本由美	手術中，非定型乳房切断術へ術式が変更になった乳がん患者の看護	臨床看護	26	6	1024-1028	
749	関戸香菜子	手術を受入れるまでに時間を要した乳がん患者への精神的ケア	臨床看護	26	6	1029-1035	
750	吉野仁子	乳房喪失に伴う心理的葛藤があり，パニック状態に陥った乳がん患者の看	臨床看護	26	6	1036-1042	
751	野沢浩江	乳がん患者の看護；抗癌剤の治験を受ける患者の看護	臨床看護	26	6	1043-1047	

表４－５　レビュー対象文献一覧－20

論文NO	著者	論文タイトル	雑誌名	巻	号	頁	年
752	川畑貴美子	乳がん手術患者のQOLの変化と要因に関する研究（第1報）	臨床看護	26	9	1451-1459	
753	小野いくみ	若年発症し，腎障害が長期にわたったSLE患者の看護	臨床看護	26	9	1317-1323	
754	小須田るみ	嚥下障害を生じた強皮症患者の看護	臨床看護	26	9	1324-1330	
755	高野貴美代	多発性筋炎・皮膚筋炎で筋力低下を生じている患者の看護	臨床看護	26	9	1331-1338	
756	林友美	血管炎症症候群をもつ患者の看護	臨床看護	26	9	1339-1346	
757	池松裕子	複合臓器機能不全症候群患者の看護	臨床看護	26	10	1573-1577	
758	高橋純子	在宅酸素療法患者のQOL	臨床看護	26	10	1578-1582	
759	能野明美	喀血のため入退院を繰り返す肺アスペルギローマ患者へのかかわり方	臨床看護	26	10	1583-1591	
760	谷沢貴久	生活力量の弱い家族への援助を考える	臨床看護	26	12	1876-1885	
761	浮橋由香里	糖尿病性網膜症による全盲透析患者に対する看護援助の検討	臨床看護	26	12	1743-1747	
762	山川浩子	根治不能の進行癌を合併した透析患者の看護	臨床看護	26	12	1748-1752	
763	中山優子	高齢者の透析導入時の指導；十分な教育を受けずに転入をしてきた患者へ	臨床看護	26	12	1753-1757	
764	清本有希	高齢透析患者を支える家族とのかかわり	臨床看護	26	12	1758-1764	
765	杉本文美子	移植から透析へと戻った長期透析患者の看護	臨床看護	26	12	1765-1768	
766	関浩美	高次機能障害のある肝移植後患者・家族への看護	臨床看護	26	14	2153-2157	
767	一宮茂子	生体肝移植患者・家族の心を支えて	臨床看護	26	14	2158-2165	
768	京力深穂	生体部分肝移植後の患児の看護	臨床看護	26	14	2166-2174	
769	田淵タカ子	肝移植患者の看護；看護ケアプランガイドに沿った看護のポイント	臨床看護	26	14	2175-2187	
770	田中美佳	外鼠径ヘルニアで手術を受ける患児の看護	小児看護	23	1	9-20	2000
771	中村潤子	乳児病棟における鼠経ヘルニア患児の看護	小児看護	23	1	21-29	2000
772	富沢三枝	外鼠径ヘルニアの看護；嵌頓ヘルニア患児の初診時から退院までの看護を	小児看護	23	1	30-38	2000
773	佐久間友子	鼠径ヘルニア患児の看護；クリティカル・パスを導入して	小児看護	23	1	39-51	2000
774	石山宏央	長期入院した重症喘息児の集団指導	小児看護	23	1	122-127	2000
775	栗城有実	長期入院中にストレスを生じた単純性肥満患児に対する援助	小児看護	23	3	265-270	2000
776	青柳亜希子	生活習慣の変化から高脂血症を発症した児の看護	小児看護	23	3	271-278	2000
777	山崎知恵子	不適応反応があり２型糖尿病を発症した患児の看護	小児看護	23	3	279-284	2000
778	飯島弘子	睡眠時無呼吸症候群をともなう高度肥満児の看護；セルフケア不足理論を用いての振り返り	小児看護	23	3	285-290	2000
779	菅弘子	新卒ナースの小児看護技術習得に関する縦断的調査（第１報）；卒後1年間における観察技術・診療への協力技術に対する自己評価と婦長の評価およ	小児看護	23	3	370-383	2000
780	白川智子	学童期にある脳腫瘍患児の看護；長期入院児療養生活の質向上への援助	小児看護	23	4	393-402	2000
781	菊地千佳子	脳腫瘍患者と家族のターミナル期におけるニードに添った援助；在宅介護を選択した２事例をとおして	小児看護	23	4	403-411	2000
782	臼田美穂	術後内分泌障害を起こした脳腫瘍患児の看護；尿崩症・ADLの低下・家族へ	小児看護	23	4	412-420	2000
783	山本靖子	新卒ナースの小児看護技術習得に関する縦断的調査（第２報）；卒後1年間における指導技術・コミュニケーション技術に対する自己評価と婦長の評	小児看護	23	4	504-515	2000
784	中山裕子	予後不良児に対するターミナルケア；ファミリールームを実施して	小児看護	23	6	669-677	2000
785	池内和代	NICUの面会について	小児看護	23	6	678-684	2000
786	松本里恵	多発奇形児をわが子にもつ両親への悲嘆ケア；短期間に生と死を受容しなければならなかった両親へのアプローチ	小児看護	23	6	685-696	2000

表４－５　レビュー対象文献一覧－21

論文NO	著者	論文タイトル	雑誌名	巻	号	頁	年
787	水野智恵子	障害のある子どもの家族の面会と家族参加について；短小腸症候群の事例	小児看護	23	6	697-706	2000
788	濱中喜代	長期療養中の腎疾患患児と家族に対する看護	小児看護	23	6	765-772	2000
789	下條美芳	小児ヘルスケアシステムへの展開；S大学医学部附属病院の病虚弱特殊学級（院内学級）の開設	小児看護	23	6	773-776	2000
790	大見サキエ	発見が遅れやすく治療経過が一律でない患児の母親への援助；ペルテス病に罹患した子どもの母親の思いに焦点をあてて	小児看護	23	6	777-782	2000
791	森山由香里	重度障害児の摂食に関する評価；記録用紙の作成と有用性－摂食機能訓練	小児看護	23	6	783-791	2000
792	星野早苗	小児がん患者の疼痛マネジメント	小児看護	23	7	801-808	2000
793	倉野由美	腹膜炎により腹痛を訴える患児の看護；母子相互に精神的安定をはかれるようなかかわりをもつことえで児の痛みが緩和した事例	小児看護	23	7	809-812	2000
794	佐藤真理子	就学前患児のPCAを用いた手術後の痛みに対する看護	小児看護	23	7	813-819	2000
795	橋野雅美	子どもの痛みと症状緩和；血液腫瘍科病棟の事例報告	小児看護	23	7	820-828	2000
796	中村敦子	口唇裂一次手術を受ける患児をもつ家族への援助	小児看護	23	8	935-940	2000
797	橋本美加子	外表奇形の児をもつ両親への看護；双胎第一子に障害がある母親へのアプ	小児看護	23	8	941-949	2000
798	山城裕子	多発奇形をもつ児の家族への援助；家族の愛着形成への援助を考える	小児看護	23	8	950-958	2000
799	松田香織	外表性の重度障害をもつ児と両親の育児への援助；13トリソミーの患児の	小児看護	23	8	959-965	2000
800	林田彩子	扁平椎体性致死性軟骨異栄養症の一考察；子どもと両親とのかかわりをと	小児看護	23	8	966-972	2000
801	宮谷惠	患児の処置に対する家族参加の実態調査	小児看護	23	8	1038-1043	2000
802	荒木奈々	検査や処置を受ける小児の看護；教育準備モデルと共感的理解	小児看護	23	8	1044-1048	2000
803	長谷川知美	ICUへの転棟を繰り返す長期療養患児に対する継続看護のあり方	小児看護	23	8	1049-1053	2000
804	桑崎綾子	乳児アトピー性皮膚炎患者の外来における症状緩和のための家族指導	小児看護	23	10	1323-1327	2000
805	宮口敏子	アトピー性皮膚炎で瘙痒感の強い患児への援助	小児看護	23	10	1328-1341	2000
806	大藤きみ子	瘙痒感をともなうアトピー性皮膚炎患者の看護；スキンケア・環境整備を	小児看護	23	10	1342-1348	2000
807	岡本幸江	小児の生活の変化によって生じた健康問題の動向と課題；10年間の看護文献検索をとおして	小児看護	23	10	1424-1428	2000
808	石山宏央	喘息児の積極的治療参加に集団力動を利用した療育的アプローチ	小児看護	23	10	1429-1432	2000
809	南前恵子	通院児の母親が示す対児感情に関する研究	小児看護	23	10	1433-1439	2000
810	残間京子	恐怖心の強い右下腿開放骨折患児の看護	小児看護	23	11	1449-1453	2000
811	田中正子	外科的療法を受けた上腕骨顆上粉砕骨折患児と家族の看護；退院後のセルフケア実践に向けてのかかわり	小児看護	23	11	1454-1463	2000
812	吉永千賀子	小児の骨折の看護；上腕骨顆上骨折の事例をとおして	小児看護	23	11	1464-1473	2000
813	山元恵子	当院における経管ラインの誤接続防止対策の試み	小児看護	23	11	1542-1550	2000
814	窪田和子	はずれない、はだけない、スピーディに着せられる小児点滴衣の工夫	小児看護	23	11	1551-1556	2000
815	永谷智恵	テオフィリン持続点滴により興奮状態を呈した患児に実施した一時的点滴	小児看護	23	11	1557-1563	2000
816	滝澤由美	長期挿管中患児の抑制方法の工夫；遊びを妨げず安全で安楽な抑制	小児看護	23	12	1573-1580	2000
817	加登泉	1歳児の成長発達を考えた抑制の援助	小児看護	23	12	1581-1588	2000
818	船橋美和	IVHを挿入した幼児に対する抑制帯の工夫；末梢幹細胞移植を受ける患児の	小児看護	23	12	1589-1595	2000
819	大石三枝子	個別性に合わせた抑制の実際	小児看護	23	12	1596-1602	2000
820	山本智恵	ターミナル期の子どもをもつ家族への看護ケア	小児看護	23	12	1646-1654	2000
821	藤原ゆかり	望まない妊娠をした若年初産婦の分娩前教育	小児看護	23	12	1655-1669	2000

表４－５　レビュー対象文献一覧－22

論文NO	著者	論文タイトル	雑誌名	巻	号	頁	年
822	安藤陽子	幼児の建造物からの転落事故の実態とその防止方法	小児看護	23	12	1670-1675	2000
823	富永智栄子	学童期の検査・処置へのインフォームド・コンセントを考える	小児看護	23	13	1699-1704	2000
824	嵐田祥世	手術を受ける子どもへのインフォームド・コンセント；紙芝居を用いた術前オリエンテーションの工夫	小児看護	23	13	1705-1709	2000
825	福地本晴美	インフォームド・コンセントにより治療を自己決定した患児の看護；子どもの権利を考える	小児看護	23	13	1710-1716	2000
826	荒木紀子	入院患児の年齢発達段階と家族背景の側面からみたインフォームド・コンセントのすすめ方	小児看護	23	13	1717-1722	2000
827	宮畑和子	知的障害児通園施設の現況；統計からの一考察	小児看護	23	13	1798-1805	2000
828	深澤保子	人工呼吸器装着中のダウン症児の修学旅行参加への試み	小児看護	24	1	9-19	2001
829	和田美智子	ダウン症児の母親への障害受容に向けての援助；療育システムをとおしてのダウン症児と母親へのかかわり	小児看護	24	1	21-31	2001
830	上野敦子	ダウン症児の援助；ウエルネス型看護診断を用いて	小児看護	24	1	32-36	2001
831	鈴木恵子	ダウン症児の背景と家族の受け入れについての考察；10年間に入院したダウン症児の背景と2事例を振り返って	小児看護	24	1	37-44	2001
832	山元恵子	経管ラインの誤接続防止対策の試み（そのⅡ）；実施後の経過と今後の課	小児看護	24	1	120-132	2001
833	馬場ひろみ	母親との分離不安を持った川崎病患児の看護；成長・発達期にある幼児の適応行動への援助	小児看護	24	2	143-157	2001
834	髙見奈緒子	多彩な症状をきたしエルシニア感染症が疑われた川崎病年長患児の看護の	小児看護	24	2	158-165	2001
835	白水悦子	当病棟における川崎病患児の実態と看護の傾向；クリティカルパス作成の	小児看護	24	2	166-176	2001
836	加藤由香	川崎病の発熱により誘発されたてんかん波を認めた患児の看護	小児看護	24	2	177-188	2001
837	林部麻美	2度目の骨髄移植に対し不安が強い思春期患者への看護；経験者同士の情報	小児看護	24	3	279-285	2001
838	石上香	成長・発達過程にある再発患児への支援	小児看護	24	3	286-292	2001
839	大坪佳代	再発・再入院した幼児期の子どもとその家族への援助；子ども・家族のストレス軽減に焦点をあてて	小児看護	24	3	293-301	2001
840	広沢美和子	再発後病名告知を受けた思春期患者へのかかわり；骨髄移植を前向きに受け止められた1事例をとおして	小児看護	24	3	302-308	2001
841	藤原瑞枝	超低出生体重児の看護	小児看護	24	4	411-418	2001
842	笠原光子	外科的治療を必要とする新生児の看護；鎖肛・先天性気管狭窄の事例を経	小児看護	24	4	419-427	2001
843	田中光代	先天性異常のある新生児の看護；胎児診断された先天性心疾患患児の事例	小児看護	24	4	428-438	2001
844	下瀬茂美	超低出生体重児として出生した双胎の1児の看護；入院から入院後1ヶ月ま	小児看護	24	4	439-445	2001
845	小宮亜裕美	骨延長法による頭蓋顔面形成術を受けた患児の看護	小児看護	24	5	679-683	2001
846	古谷美砂子	ファロー四徴症極型の根治術に臨んだ難聴を持つ患児の看護	小児看護	24	5	684-689	2001
847	中村智恵美	経肛門的ヒルシュスプルング病根治術を受けた患児の術前・術後の看護の	小児看護	24	5	690-695	2001
848	梶山紀子	地震災害と看護ケアの実際	小児看護	24	6	811-817	2001
849	有江典子	虐待により外傷後ストレス症候群に陥ったと思われる子どもとその親への	小児看護	24	6	818-825	2001
850	大井洋子	外傷後にストレス症候群に陥った小児の看護ケアの実際	小児看護	24	6	826-836	2001
851	髙井亜希	痒みのある子どもの睡眠に対する援助；アトピー性皮膚炎児のスキンケアと環境調整に重点をおいて	小児看護	24	7	943-957	2001
852	北田良子	呼吸困難を持つ乳児の睡眠に対する援助；気管・口頭軟化症の事例をとお	小児看護	24	7	958-966	2001

表４－５　レビュー対象文献一覧－23

論文NO	著者	論文タイトル	雑誌名	巻	号	頁	年
853	西井美津子	痛みにより睡眠に障害をきたしている患児の看護	小児看護	24	7	967-973	2001
854	板橋久美子	筋じすとろふぃーの合併症症状により睡眠が中断される患者への援助	小児看護	24	7	974-981	2001
855	横山美知子	痙攣を伴った急性胃腸炎の看護	小児看護	24	8	1335-1343	2001
856	関千尋	腹腔鏡下虫垂切除術を受けた患児の看護；ダウン症を合併している患児の精神的援助を重視して	小児看護	24	8	1344-1350	2001
857	上条恵子	急性膵炎で入院し食事制限を強いられた小児の看護の実際	小児看護	24	8	1351-1361	2001
858	柴田早苗	イレウス術後患児の看護；幼児・学童児の看護をとおして	小児看護	24	8	1362-1371	2001
859	久保川真澄	腸重積症児の看護；観血的および非観血的整復術の2事例をとおして	小児看護	24	8	1372-1380	2001
860	服部良江	ネフローゼ症候群の看護の実際；思春期に初発入院となった女児の事例	小児看護	24	11	1479-1492	2001
861	日下部知代子	ネフローゼ症候群で入退院を繰り返す患児の看護	小児看護	24	11	1493-1497	2001
862	手塚博子	学童前期にある再発型ネフローゼ症候群の患児･家族の看護；セルフケア能	小児看護	24	11	1498-1506	2001
863	植田美春	幼児期における初発ネフローゼ症候群の看護	小児看護	24	11	1507-1516	2001
864	山本美知子	心疾患をもつ子どもの看護の実際	小児看護	24	12	1619-1625	2001
865	秋葉由美子	消化器疾患をもつ子どもへの看護の実際；総胆管 嚢腫で緊急手術となった2	小児看護	24	12	1626-1632	2001
866	近藤敦子	ネフローゼ症候群の患児の口腔ケア；食前の含嗽指導をとおして	小児看護	24	12	1633-1639	2001
867	杉村知香子	口腔疾患をもつ患児の看護；唇顎口蓋裂患児の事例をとおして	小児看護	24	12	1640-1649	2001
868	関口典子	血液疾患をもつ子どもの口腔ケアの実際；骨髄移植を受ける患児へのケア	小児看護	24	12	1650-1661	2001
869	畑直子	重症心身障害児における口腔ケアについて；摂食訓練の視点から	小児看護	24	12	1662-1668	2001
870	市江和子	小児看護学実習における集団遊びの学習効果	小児看護	24	12	1723-1729	2001
871	市江和子	NICU実習における学習効果の検討；NICU実習の課題レポートに対する分析	小児看護	24	12	1730-1734	2001
872	石崎文	被虐待児のケアおよび母親・家族へのケア	小児看護	24	13	1745-1755	2001
873	広岡智子	虐待問題を抱える親へのアプローチ；MCGの活動の意味と実際	小児看護	24	13	1756-1765	2001
874	富家禎子	子育て中のハイリスク女性に対する出会い・共感・安心・気づきと振り返	小児看護	24	13	1766-1775	2001
875	堀田春美	大腿骨頸部骨折患者の早期離床への働きかけ	臨床看護	27	1	13-22	2001
876	大泉真理	高齢者の骨折と家族アセスメントの重要性	臨床看護	27	1	23-31	2001
877	富岡三枝子	高齢の大腿骨頸部骨折患者の術前看護	臨床看護	27	1	32-37	2001
878	佐川睦記	大腿骨頸部骨折患者の看護と家族への支援	臨床看護	27	1	38-41	2001
879	寺崎順子	食道癌の手術を受けた患者の看護	臨床看護	27	2	155-165	2001
880	松浦京子	子宮筋腫で手術を受けた患者の看護	臨床看護	27	2	166-171	2001
881	西岡ひとみ	心拍動下冠状動脈バイパス術を受ける患者の看護	臨床看護	27	2	172-178	2001
882	小林亮	肺切除術を受ける肺癌患者の周術期管理と看護	臨床看護	27	2	179-188	2001
883	川畑貴美子	乳がん手術患者のQOLの変化と要因に関する研究（第2報）	臨床看護	27	2	277-283	2001
884	丸山由美	CAPD患者のチューブ固定テープに関する検討	臨床看護	27	2	284-286	2001
885	藤内美保	理学訓練中の患者の病気に対する認識とリハビリテーション意欲との関連	臨床看護	27	2	287-291	2001
886	小野寺久美子	糖尿病性壊疽を併発した糖尿病患者の看護	臨床看護	27	3	303-308	2001
887	八木典子	糖尿病性腎症患者の透析療法の実際	臨床看護	27	3	309-313	2001
888	相田昌子	若年糖尿病患者の看護	臨床看護	27	3	314-318	2001
889	乙津町子	セルフケア困難な糖尿病患者の心理的アプローチ	臨床看護	27	3	319-325	2001
890	岡野貴子	当院における肥満糖尿病患者に対するVLCD療法の看護の検討	臨床看護	27	3	326-331	2001
891	倉田利恵	入退院を繰り返すアトピー性皮膚炎患者の看護	臨床看護	27	6	997-1002	2001

表４－５　レビュー対象文献一覧－24

論文NO	著者	論文タイトル	雑誌名	巻	号	頁	年
892	張　莉恵	アトピー性皮膚炎患者の看護	臨床看護	27	6	1003-1009	2001
893	宮野瑞希	アトピー性皮膚炎患者に対する精神的看護	臨床看護	27	6	1010-1015	2001
894	高橋久子	アトピー性皮膚炎患者の看護	臨床看護	27	6	1016-1022	2001
895	田中奈津美	乳癌患者に対するグループカウンセリング；グループ内のうつ状患者への	臨床看護	27	7	1141-1147	2001
896	小松理恵	火災で子どもを亡くした熱傷患者の看護；対象喪失による悲しみへの対応	臨床看護	27	7	1148-1154	2001
897	堀口由香里	ナースコールを押しつづけるうつ状態患者の看護	臨床看護	27	7	1155-1159	2001
898	南迫裕子	うつ病患者からのうつ症状のサインとその対処	臨床看護	27	7	1160-1166	2001
899	大川恵美	高齢者の褥瘡予防と発生後のケア	臨床看護	27	8	1290-1294	2001
900	奈良千鶴子	ICUにおける褥瘡予防	臨床看護	27	8	1295-1302	2001
901	折田睦子	手術中の褥瘡予防	臨床看護	27	8	1303-1307	2001
902	山田奈緒美	終末期癌患者における褥瘡予防と発生後のケア	臨床看護	27	8	1308-1313	2001
903	山名敏子	脊髄損傷患者の褥瘡予防と発生後のケア	臨床看護	27	8	1314-1321	2001
904	村山志津子	高齢者が介護する褥瘡患者への支援	臨床看護	27	8	1322-1333	2001
905	小潟理恵	8年間の入院生活から家庭復帰を決意した患者への援助；Finkの危機モデル	臨床看護	27	9	1546-1550	2001
906	上本野唱子	呼吸機能訓練の術後呼吸機能に及ぼす効果について	臨床看護	27	9	1551-1555	2001
907	中村法子	高齢者の非侵襲的自律神経機能検査施行後の感想調査	臨床看護	27	9	1556-1559	2001
908	戸井間充子	ターミナル期の患者をかかえ，破綻をきたしている家族への看護介入	臨床看護	27	9	1560-1569	2001
909	坪山由香	在宅ホスピスケアの実際	臨床看護	27	10	1581-1586	2001
910	白石かすみ	事例から考える訪問看護の役割	臨床看護	27	10	1587-1591	2001
911	麦田ちさと	事例にみる地域ネットワークによる在宅ホスピスケア	臨床看護	27	10	1592-1596	2001
912	田代京子	在宅緩和ケアへの取り組み	臨床看護	27	10	1597-1602	2001
913	松井るみ	日帰り（成人）鼠径ヘルニア手術の看護	臨床看護	27	11	1721-1727	2001
914	大澤栄子	デイサージャリ-におけるケア・コーディネーターの役割；外痔核手術患者の看護をとおして	臨床看護	27	11	1728-1735	2001
915	小林直子	内科病棟におけるデイサージャリ-；内視鏡的手術の現状とクリティカルパ	臨床看護	27	11	1736-1744	2001
916	平澤英子	クリティカル・パスを活用した白内障日帰り手術患者の看護	臨床看護	27	11	1745-1752	2001
917	由井濱克江	膣式超音波下採卵術を受ける不妊症患者の看護	臨床看護	27	11	1753-1759	2001
918	細原正子	虚血性心疾患患者におけるタイプA行動パターンとストレス・コーピングの	臨床看護	27	12	2243-2248	2001
919	松井富子	在宅ホスピスの実際	臨床看護	27	12	2249-2261	2001
920	石川有紀	在宅酸素療法を必要とする患者への在宅支援	臨床看護	27	12	2262-2267	2001

(3)文献の要約と内容の中間的評価

収集した文献については、データベース化に向けての作業を進めた。上述の所定の書式への要約を役 270 文献について完了し、これらについて、順次、対象としている看護技術の領域および研究方法の 2 側面から分類（コーディング）を行った。

看護技術の領域は、「基礎看護」、「成人看護」、「小児看護」等、10 区分、研究方法は、「症例検討」、「断面調査」、「縦軸調査」等の 10 区分とした[3]（表４－６・表４－７・図４－２）。

表４－６　看護技術の領域の分類コード

1	基礎看護
2	成人看護
3	小児看護
4	母性看護
5	精神看護
6	地域看護
7	老年看護
8	看護管理
9	看護教育
10	その他

表４－７　文献の研究デザインの分類コード

1	症例報告：case report
2	断面調査：cross-sectional
3	縦軸調査（前向き）：prospective, cohort
4	縦軸調査（後ろ向き）：retrospective, case control, trohoc
5	無対象臨床試験：CT=clinical trial without control
6	非無作為化臨床試験：nonrandomized CT
7	無作為化臨床試験：randomized CT
8	実験室研究：laboratory
9	文献検討：
10	その他

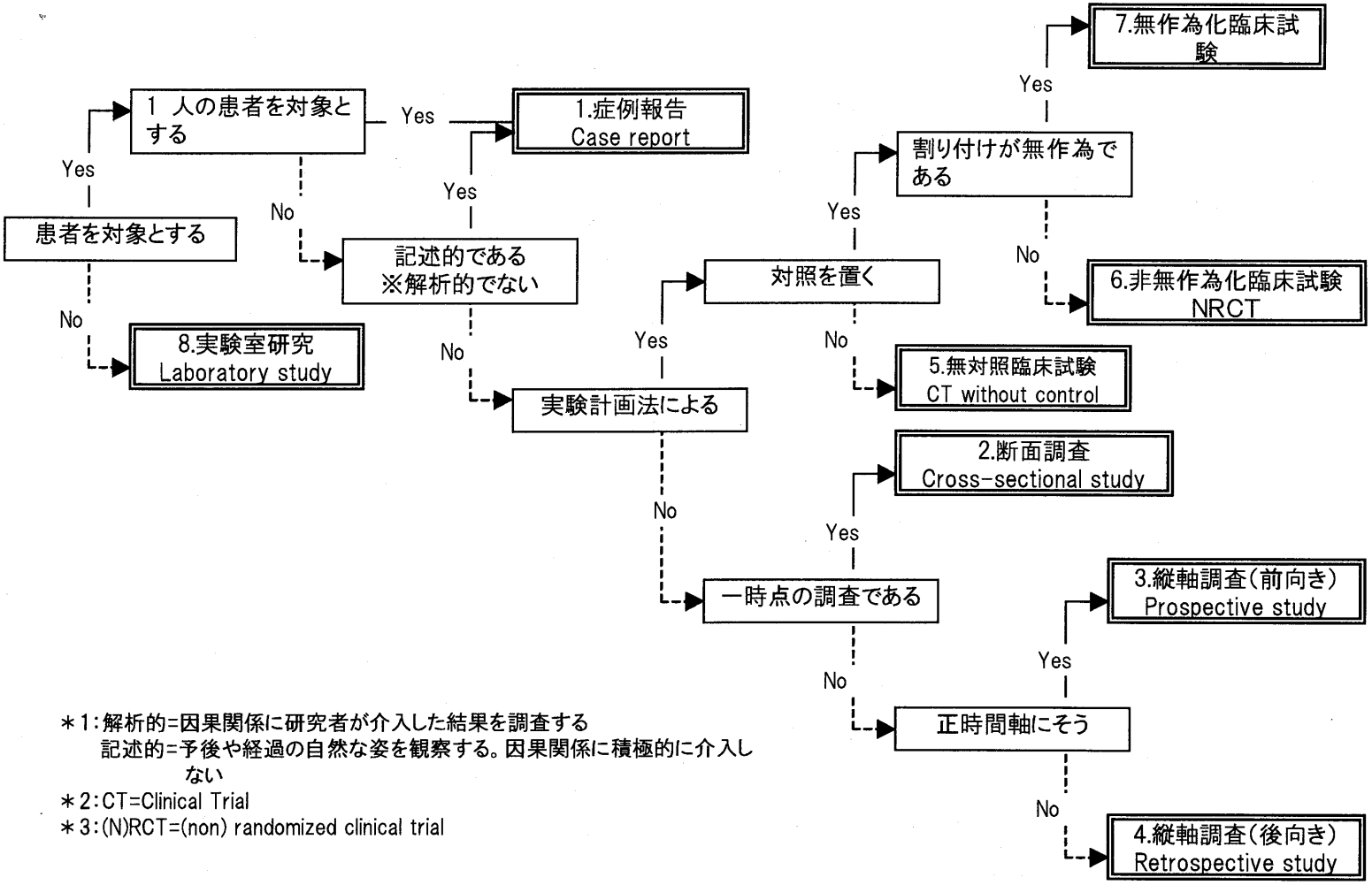
その結果、①看護技術の領域については、「成人看護」、「小児看護」の領域に文献の多いこと、②研究方法については、「症例検討」、「断面調査」によるものが多いこと、の 2 点が確認された（表４－８）。ここで、「症例検討」には、研究を行うにあたっての問題設定や分析的な視点が必ずしも明確ではない事例報告的要素の強い文献を多く含み、また、「断面調査」とは、患者や看護職を対象とした質問紙調査によるものがそのほとんどである。

また、各文献の内容を的確に示すキーワードの割り付けも行ったが、付与基準を設けず担当者の判断基準に則って行ったため、担当者間で使用するキーワードの概念レベルや抽象度等に差が認められる結果となった。

(4)データベースの試作

要約、看護技術領域と研究方法の分類、キーワード等の情報にエビデンスレベルの評価を追加することを想定したデータベースを試験的に作成し、270 文献を登録した。(図４－３)。

図4－2 研究デザイン分類チャート



＊1：解析的=因果関係に研究者が介入した結果を調査する
記述的=予後や経過の自然な姿を観察する。因果関係に積極的に介入しない
＊2：CT=Clinical Trial
＊3：(N)RCT=(non) randomized clinical trial

分類は砂原による「臨床研究の分類」を参考にしている（砂原茂一；臨床医学研究序説　方法論と倫理，医学書院，1998）

表４－８　対象領域と研究デザイン

		対象領域										
		基礎看護	成人看護	小児看護	母性看護	精神看護	地域看護	老年看護	看護管理	看護教育	その他	合計
研究デザイン	症例報告	8	47	23	2	6	4	4	0	0	2	96
		8.3%	49.0%	24.0%	2.1%	6.3%	4.2%	4.2%	0.0%	0.0%	2.1%	100.0%
		33.3%	42.0%	48.9%	12.5%	42.9%	19.0%	21.1%	0.0%	0.0%	10.5%	**35.2%**
	断面調査	4	29	12	8	1	12	9	0	1	8	84
		4.8%	34.5%	14.3%	9.5%	1.2%	14.3%	10.7%	0.0%	1.2%	9.5%	100.0%
		16.7%	25.9%	25.5%	50.0%	7.1%	57.1%	47.4%	0.0%	100.0%	42.1%	**30.8%**
	縦軸調査：前向き	1	13	5	2	2	2	1	0	0	2	28
		3.6%	46.4%	17.9%	7.1%	7.1%	7.1%	3.6%	0.0%	0.0%	7.1%	100.0%
		4.2%	11.6%	10.6%	12.5%	14.3%	9.5%	5.3%	0.0%	0.0%	10.5%	10.3%
	縦軸調査：後ろ向き	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5
		40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
		8.3%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%
	無対照臨床試験	0	2	1	0	0	0	1	0	0	1	5
		0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	100.0%
		0.0%	1.8%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	5.3%	1.8%
	非無作為化臨床試験	3	10	3	1	1	2	2	0	0	1	23
		13.0%	43.5%	13.0%	4.3%	4.3%	8.7%	8.7%	0.0%	0.0%	4.3%	100.0%
		12.5%	8.9%	6.4%	6.3%	7.1%	9.5%	10.5%	0.0%	0.0%	5.3%	8.4%
	無作為化臨床試験	0	4	0	0	1	1		0	0	0	6
		0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
		0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	7.1%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%
	実験室研究	5	2	0	1	1	0	1	0	0	2	12
		41.7%	16.7%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	16.7%	100.0%
		20.8%	1.8%	0.0%	6.3%	7.1%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	10.5%	4.4%
	文献検討	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	0.4%
	その他	1	2	3	2	2	0	1	0	0	2	13
		7.7%	15.4%	23.1%	15.4%	15.4%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	15.4%	100.0%
		4.2%	1.8%	6.4%	12.5%	14.3%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	10.5%	4.8%
	合計	24	112	47	16	14	21	19	0	1	19	273
		8.8%	**41.0%**	17.2%	5.9%	5.1%	7.7%	7.0%	0.0%	0.4%	7.0%	100.0%
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図４－３　文献データベース

平成13年度 厚生科学研究費補助金 21世紀型医療開拓推進 研究事業

根拠に基づく看護技術のデータベース化に関する研究　文献データベース

00002
85

小児肥満予防のための地域看護的介入に関する基礎的研究

著者：斎藤好子
水口浩光,嶋崎典子,井上知美,高橋知佐子,西部美由紀,森川有子

出典：看護研究
2002 Vol. 34 No. 1 51-57 Japanese

◆問題提起

小児肥満は小児成人病や大人の生活習慣病との関連などのため，近年注目を浴びている。しかし，乳幼児期から学童期や思春期に至るまで，成長過程を継続して追跡した研究は少なく，小児肥満の形成時期やそれに関係する要因については明確でない。そこで，本研究は6歳の児童の成長の経過について，出生時期までさかのぼることで，小児肥満がいつ頃，どのような要因が関与して形成されるのかを探り，適切な地域看護的介入について考察する。

◆研究方法

調査対象はF県F保健所管内の小学校8校の1年生573名。調査方法は配置法を採用。子供の発育と生活に関する調査用紙を担任教師から児童へ配布。調査項目は性，成長の状況，環境的項目，食生活的項目，運動的項目。調査期間は1997年10月1～15日。有効回答数537。有効回収率93．7%。調査用紙の回答から，1997年4月（6歳時）に肥満度20%以上（加藤式肥満度判定基準表による）の児童37名（男子13名，女子24名）を肥満群として抽出した。肥満群のそれぞれの児童について，同性であり，出生時の身長および体重が同等で，6歳時点での肥満度が＋10%以内の児童を対象群として抽出し，肥満児童1名に対して，対象児童2名のマッチド・ペアを組んだ。分析方法は，肥満群と対象群について各時点のカウプ指数，肥満者の出現率を比較し，t検定および$\chi 2$検定を行った。必要に応じ回答全数との比較も行なった。肥満の判定には出生時から3歳まではカウプ指数，6歳時点ではカウプ指数と加藤式肥満度判定基準を併用し，カウプ指数18以上を肥満として扱った。肥満に関係すると考えられる要因を検討し，オッズ比の算出およびマンテル・ヘンツェルの検定などを行なった。

◆主な結果

肥満群の方が対象群よりも1歳6ヵ月以降はカウプ指数が大きかった。各時期の肥満の発生状況では，4ヵ月時点で肥満群の50%，対象群の25%に肥満があり，$\chi 2$検定により有意水準5%で差がみられた。全数中の肥満者は23．1%であった。3歳時点では肥満群の30．3%，対象群の5．6%に肥満がみられ，$\chi 2$検定により有意水準1%で差があった。しかし，3歳時に始めて肥満となった子どもは肥満群，対象群で各1名のみであった。3歳時点で肥満のあった者で，4ヵ月時に肥満があった者が肥満群で81．8%，対象群では75．0%を占めた。肥満群の者のうち，3歳児健診後6歳までの間に始めて肥満になった者は13人であったが，このうちの9人（69．2%）は6歳時の食べ方が「たくさん食べる」であった。4ヵ月時に肥満で，6歳時に肥満が再来した者は8人であった。小児肥満の出現の度合いは時期によって変化しているため，肥満群・対象群ともに，4ヵ月時に肥満であっても1歳6ヵ月時には正常範囲になる者が多かった。肥満群では3歳時に4ヵ月時の肥満が再来し，6歳時点ではさらに肥満者が増加した。対象群では3歳時点で1歳6ヵ月時よりも肥満者の割合は増加し，6歳時点で肥満者はいなくなった。環境的要因として，兄弟の順位について「一人っ子・末子」とその他に分け，肥満群のうち「一人っ子・末子」であったものの組み合わせについてみると，その対象群である2人がともに「一人っ子・末子」の場合が3組，2人のうち1人が「一人っ子・末子」であった場合が16組，2人とも「一人っ子・末子」でなかった場合が7組であり，合計26組であった。オッズ比2．5であり，マンテル・ヘンツェルの検定は4．26（$p<0.05$）で有意差が見られた。すなわち，肥満群に一人っ子または末子が有意に多かった。食生活的要因として，「離乳食の食べ方」については，オッズ比10．0であり，マンテル・ヘンツェルの検定により有意水準1%で，肥満群に「たくさん食べた」が多かった。また，間食の与え方では，「欲しがる時」が肥満群70．3%，対象群56．8%であった。「6歳時の食べ方」は「たくさん食べる」がオッズ比15．3，検定により有意水準1%で肥満群に多かった。「食事にかける時間」は「20分まで」が肥満群に有意（$p<0.05$）に多かった。運動的要因として，「運動が嫌い，およびどちらともいえない」者の割合はオッズ比4．8で，検定の結果有意水準1%で差がみられた。

◆結論

小児肥満には，エネルギーの過剰摂取が関与している。小児肥満予防のためには，乳児期から欲しがるだけ与えると危険な場合がある事を意識させたい。遺伝的素因があり得る場合は，早食いを防止すべきである。

Summaried by 上村　美智留

キーワード：
看護婦の行動パターン

研究領域：
小児看護

研究方法：
断面調査

Commentary

IV

中野夕香里

Designed by Japanese Nursing Association　020126.02　02/09/04　12:51:49

D．考察

(1)看護技術に関する研究実績の集積状況について

平成13年度の研究結果から、中間的な評価ではあるが、看護に関する国内文献では、①看護技術の領域については、「成人看護」、「小児看護」の領域に文献の多いこと、②研究方法については、「症例検討」、「断面調査」によるものが多いこと、の2点が確認された。

①の看護技術の領域については、文献収集の対象とした雑誌の扱う内容が大きく影響しており、今後、対象雑誌を拡大していく中で、再度同様の観点からの評価を行い、看護技術に関する研究成果やエビデンスの集積状況について、的確にフィードバックしていくことが必要である。

②の研究方法については、「症例検討」や「断面調査」等の方法で得られた研究結果については従来の評価基準に従えばエビデンスレベルは比較的高くなく評価されると予想される。特に、今回の結果で、「症例検討」には事例報告文献が、また、「断面調査」とは、患者や看護職を対象とした質問紙調査が多いことを考慮するならば、エビデンスの集積という目的に限定して考えた場合、わが国における看護技術に看護技術に関する研究実績の集積状況は、かなり不十分な状況であるといわざるを得ない。今後の看護技術に係る研究の方法・内容を精錬させ、臨床の場に蓄積されている経験や知識を適切に普遍化していく活動を活性化することが必要であることが認識されるとともに、本研究の第一課題であるエビデンスを「つくる」ことの重要性が再確認された。また、このような研究成果の集積状況に対して、「さがす」「つかう」という観点から、エビデンスレベルの評価基準をどのように設定するかという点が次年度の重要課題となると考える。

(2)キーワードの設定について

各文献へのキーワードの割り付けについては、付与基準を設けず担当者の判断基準に則って行ったため、担当者間で使用するキーワードの概念レベルや抽象度等に差が認められた。キーワードはデータベース上の、エビデンスを「さがす」、「つかう」という機能を構成するものである。

今年度の文献に対するキーワードの割り付け状況を再検討するとともに、「さがす」機能を果たすために必要なキーワードの特性、キーワードに使用する言語体系の標準化等も含めた設定基準の明確化が必要であろう。

(3)今後の課題

以上より、本研究を進めるにあたっての今後の課題として、データベース化に向けての作業を拡充していくこと、つまり、対象雑誌の拡大、研究の評価軸の見直し、キーワードの設定基準の明確化を行っていくことが必要であることが確認された。また、データベース化にむけた第2段階の作業として、要約文献についてのエビデンスレベルの評価、および国外文献との統合化に向けての体系的整理も平行して進めていくことも必要である。

E．結論

国内文献のデータベース化にあたっては、看護技術に関する研究成果の集積状況を鑑み、エビ

デンスを適切にかつ効率的に「つくる」活動を推進していくこととあわせて、「さがす」「つかう」という観点からわが国の研究成果の集積状況に対して有効なエビデンスレベルの評価基準をどのように設定していくかが今後の重要な課題となることが示唆された。

【引用・参考文献】

1)輪湖史子；Evidence-Based Nursing 誌概観・研究と実践をつなぐために，看護，52(2)，53-56，2000.

2)今泉千代、今田恵子；看護雑誌の評価，情報メディア学会第３回研究会発表資料，17-20，2001，10.

3)砂原茂一；臨床医学研究序説（方法論と倫理），医学書院，1988.

4)宮下光令，他；わが国の看護研究論文に用いられる統計手法について，Quality Nursing，7(10)，25-30，2001.

5)福井次矢；EBM 実践ガイド，医学書院，1999.

6)厚生省健康政策局開発振興課医療技術情報推進室；わかりやすい EBM 講座，厚生科学研究所，2000.

7)日本クリニカルエビデンス編集委員会；クリニカルエビデンス 日本語版，日経 BP 社，2001.

8)開原成允，他；JAMA 医学文献の読み方，中山書店，2001.

厚生科学研究費補助金 21 世紀型医療開拓推進研究事業
平成 13 年度　総括・分担研究報告書
根拠に基づく看護技術のデータベース化に関する研究

発行日　2002 年 3 月 31 日
発　行　社団法人日本看護協会
〒101－0003　東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 4 番 3 号
光文恒産ビル
TEL 03-5275-5871（代）
FAX 03-5275-5951

禁無断転載・複製